

漢字を見て覚える「認字教育」一頭の良い子を育てる一

認字教育

「写字教育」は漢字を書いて覚えるのに対して「認字教育」は漢字を見て覚える教育です。例えば「鬱」という漢字を書ける人は少ないが、鬱病・鬱々する・鬱蒼・鬱陶しいなどの「鬱」といえば漢字を見るだけで理解できる。これが認字の原理である。

子供は、私達が考える以上に多くの漢字を認字教育で短時間で覚えます。そのことは、私たちが実験的に小学校1.2年生の児童に認字教育を行なって、その成果を確認しています。認字教育によって、幼稚園児や1・2年生が頭の良い子に育ち、国語以外のいろんな教科にも素晴らしい成績を得ることも期待できます。

●なぜ、幼少期に認字教育を行なうのか？

①3～8歳ぐらまでは、一生の間で言葉を一番短時間で覚える期間であり、その後その能力は衰えていく。したがって、幼稚園児・小学生1～2年生が認字教育をすべき時期である。

②幼少期の早い時期に漢字を覚えることは論理能力の育成につながるため、国語のみならず他の教科の学習に良い影響を与える。

●小学生1年生への認字の模擬授業の提案

認字教育に興味のある小学校の先生は、一度認字教育研究会をお訪ねください。

認字教育のツール(教える漢字のパソコンデータ、認字教育の方法マニュアル)の提供を行います。国語教育の際に1日15分程度の時間を認字教育にあてていただきます。

当研究会においていただき、認字教育の教育方法をご指導いたします。

模擬授業によって、驚くほどの成果が得られることをご確認いただければ幸いです。

メリット

01 認字教育は同じ時間で写字教育よりずっと多くの漢字を覚えることができる。

02 認字教育によって漢字を覚えておけば、書くことができなくても認字によって覚えた漢字の文章を読むことができる。

03 現在はパソコンの時代なので、認字で漢字を知っておけば文章の作成が可能である。



認字教育の方法

- STEP1 漢字のカードを見せる。
- STEP2 漢字の発音を聞かせる。(訓読み・音読み)
- STEP3 先生が該当漢字を含んだ文章を読みあげる。(5回) その都度、児童たちに復唱させる。(5回)
- STEP4 5回読みあげ、復唱させたのち、漢字を見せて「この漢字は何と読みますか」(先生)⇒子供たち皆に答えさせる。
- STEP5 1日10分～15分の授業で10文字～15文字を基準として行う。
- STEP6 授業の終わりに先生がその日に行った漢字カードを順番に見せて、何人中何人が正解を答えられたか測定する。
- STEP7 次の授業の初めに、1週間後に前回の漢字を見せて子供達が各々の漢字を正解したかどうか1文字ずつ測定する。
- STEP8 いろんな場面で写真を撮る。(写真に日付を記録)

認字教育の実践例

下の漢字を5回読んで復唱させます。

引(ひく) 羽(はね) 雲(くも) 園(えん) 遠(とおい) 何(なに)
科(科学(かがく)のか) 夏(なつ) 家(いえ) 歌(うた) 回(かい)
画(絵画(かいが)のか) 会(あひ) 海(うみ) 絵(え) 外(そと)
角(かど) 楽(たのしい) 活(生活(せいかつ)のかつ) 間(あいだ)

※小学校1年生対象の実践例です。

漢字が読めたかどうか試しに子供に発音させます。

引 羽 雲 園 遠 何 科 夏
家 歌 画 回 会 海 絵 外
角 楽 活 間

お子さんはどれだけ漢字の読みを覚えていらっしゃいますか？

認字教育の心構え

- ①教えながら児童たちが理解しているかどうか確認しながら進める。
- ②必ず、大きい声で復唱させる。
- ③よくできる子とそうでない子を見定める。その子の特徴を記述しておく。(名簿に記録する)
- ④覚えやすかった漢字とそうでない漢字についてその理由を考える。
- ⑤どうすれば児童が早く覚えらるかを常に考えて、思いつくことがあれば、記録しておく。